

「チェック！ あなたの情報発信」

岐阜県教育委員会
学校安全課

1 はじめに

携帯電話・スマートフォンを所持する児童生徒の割合は、高校生では100%に近い状況が続いており、小学生・中学生では、増加傾向にあります。また、参考資料からわかるように、通信型のゲーム機や携帯音楽プレーヤーを所持する児童生徒の割合を見ると、小学校1年生で約50%、学年が進む毎に増加し、小学校高学年から中学生では90%近くになっています。このように、インターネットにつながる機器を手に入れている児童生徒は、様々な情報を手に入れることも発信することも容易にできる環境にあります。

☆個人情報をインターネットに書き込むと、悪用されることがある。
☆インターネット上に、書き込み・写真・動画を投稿して相手を傷つけてしまうことがある。

(独)情報処理推進機構の調査によると、悪意のあるネット投稿の経験者は、10代では、ネット投稿をしたことのある者の内の42%に上ることが示されました。自分や他人の個人情報を安易に発信してしまうことにより、様々な被害を受けた事案や、他人を傷つけてしまう事案が発生しています。こうした情報発信について警鐘を鳴らし、児童生徒が情報手段を賢く使って行けるよう、情報モラル教育に取り組む必要があります。

そこで、今年度のリーフレットは、『自分の情報発信を見直し、被害者にも加害者にもならないために、正しい情報発信について考える』ためのワークシートとして活用できるよう作成しました。


2 ポイント解説

チェック！ あなたの情報発信

軽い気持ちで、自分や他人の個人情報を公開したことがありますか？
次の項目について、あてはまるものにチェック(○)を付けましょう。

- ネットの掲示板などに、自分の名前を掲載したことがある。
- ネットの掲示板などに、自分の写真を掲載したことがある。
- ネットの掲示板などに、自分の名前を無断で掲載したことがある。
- ネットの掲示板などに、友だちの写真を無断で掲載したことがある。
- ネットの掲示板などに、友だちからかき入れの書き込みをしたことがある。
- ネットで知り合った人に、メールを送ったことがある。
- ネットで知り合った人に、自分の写真を送ったことがある。
- ネットで知り合った人と、直接会ったことがある。

1つでも○がある人は、個人情報を公開していることになります。正しい情報発信について考えていきましょう。



第11回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2015 ポスター部門 優秀賞 作品
岐阜県立岐阜総合学園高等学校 中村 香月さん

岐阜県教育委員会

このリーフレットは、法務省委託事業により作成しています。

このポスターには、どのような愚いから込められているのでしょうか。あなたの考えを書きましょう。

個人情報を公開することで、いろいろな被害にあってしまうことがあります。

【事例1】
ある男子生徒が、他の生徒をからかう書き込みをした。書き込んだ内容について非難されるようになり、書き込みをした男子生徒は学校へ行けなくなりました。

【事例2】
ある女子生徒が、ゲームサイトで知り合った男性と会って話をした。その後、男性からしつこく誘われたので会いに行ってしまう、からだを触られるなどの被害を受けた。

「誰だってその日の出来事やうれしいことは皆に伝えたいと思うことはあると思います。だからこそ、出していい情報といけない情報を見きわめてほしいです。」
『IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」受賞者の声』より。

ネット上に掲載された個人情報は、誰でも見るができるものであり、一度掲載されると、完全に消すことができません。
自分も他人も傷つけないために、自分の情報発信について考えてみましょう。

メールや掲示板の書き込みで、いじめを受けたことがある人の割合 (%)

	H26	H27
小学校		
4年生…	1.2	1.5
5年生…	1.7	1.6
6年生…	1.6	1.7
中学校		
1年生…	3.0	1.8
2年生…	2.7	1.8
3年生…	2.4	1.9
高校生		
1年生…	2.4	3.6
2年生…	2.1	3.4
3年生…	2.4	3.6

(岐阜県教育委員会調べ)

あなたは正しい情報発信をしていますか？

メールや掲示板の書き込みで、いじめを受けたことがある人の割合
平成27年度岐阜県教育委員会による調査より

悪意のあるネット投稿をしたことがある人の割合
(総務省情報処理推進機構「2015年度情報セキュリティの倫理に対する意識調査」より作成)

あなたにとって、メールや掲示板に書かれたり掲載されたりしたくないのは、どのようなことですか？

マイルール 私は、自分の情報発信について、次の事に気を付けていきます。

保護者の皆様へ
スマートフォンや通信型ゲーム機等からインターネット上に情報を発信することで、様々な被害を受けることがあります。右のグラフは、インターネットのコミュニティサイトで被害に遭った児童(18歳未満)の、そのサイトへのアクセス手段の件数を示したものです。子どもたちが被害者にも加害者にもならないために、正しい情報発信について家庭で話し合ってください。

指導例

【ステップ1】

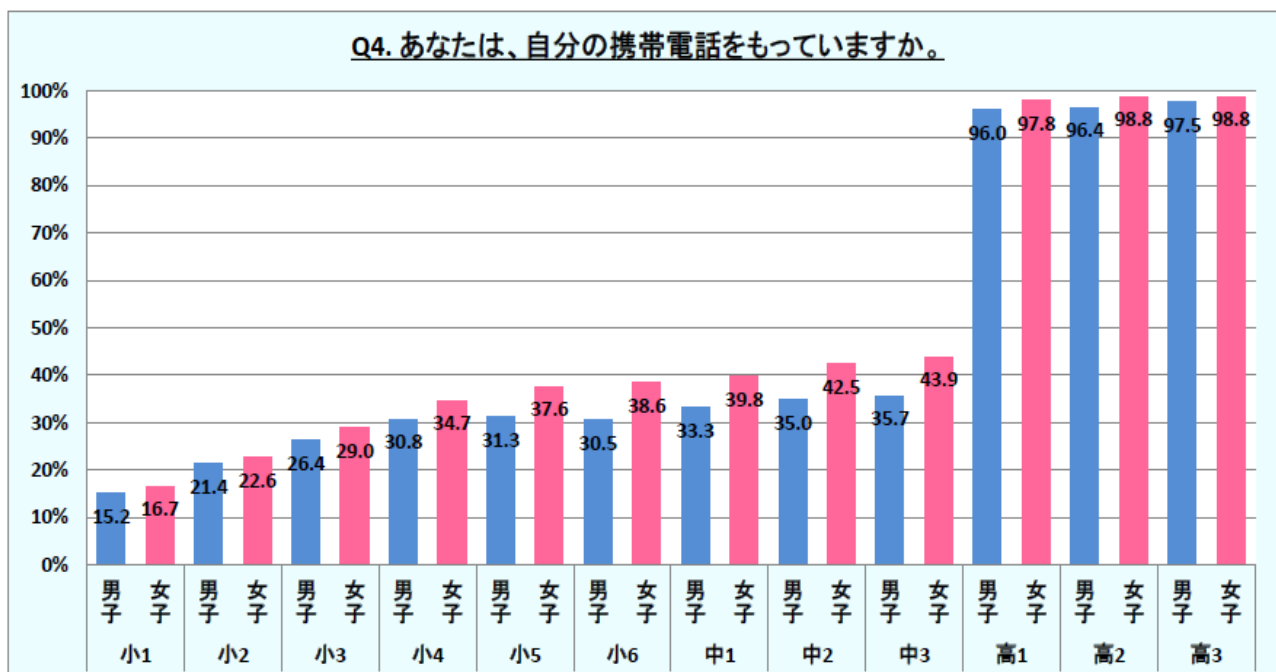
- ①自分の情報発信について、チェックする。
(必要に応じて、それぞれの内容について説明を加えてください)
- ②「軽〜い気持ちで、個人情報公開していませんか？」のポスターに込められている思いについて考える。→児童生徒それぞれが、どのような思いが込められていると感じたかについて記入する。
(このポスターに込められた作者の思いを想像し、グループなどで考えて発表させる。作者の言葉を参考にして、個人情報公開することの危険性について、グループで考えて発表させる。)
- ③個人情報が公開されていやな思いをするだけでなく、【事例1】、【事例2】のように、自分の個人情報を公開したことがきっかけとなり、被害にあってしまうこともあります。

【ステップ2】

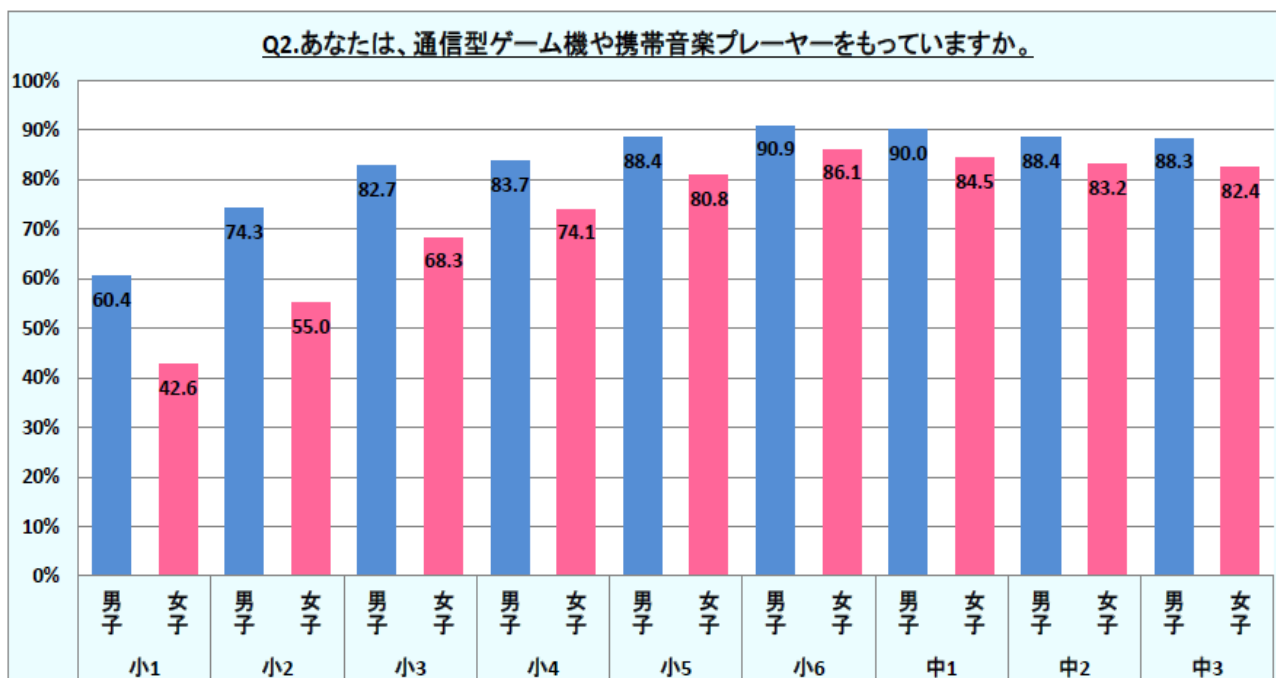
- ①「メールや掲示板の書き込みで、いじめを受けたことがある人の割合」のグラフを見て気付くことは？
(個人で考えて発表させる。グループで考えて発表させる。など)
小学生…1.6% 中学生…1.8% 高校生…3.5%
自分たちの学校や学級の中にも、メールや掲示板の書き込みで、いじめを受けたと感じている人がいる可能性があります。この割合から考えると、何人くらいいることになるのでしょうか？
- ②「悪意のあるネット投稿をしたことがある人の割合」のグラフを見て気付くことは？
(個人で考えて発表させる。グループで考えて発表させる。など)
ネット投稿をしたことがある人のうち、悪意のある投稿をしたことのある人の割合が最も高いのは10代です。10代の65%がネット投稿をしたことがあると回答しており、このうち42%が悪意のある投稿をしたことがあると回答しています。
- ③自分にとって、メールや掲示板に書かれたり掲載されたりしたくないものを書き出してみよう。
- ④「自分の身の回りにメールや掲示板の書き込みで、いじめを受けたと感じている人がいる可能性があること」、「10代では、悪意のある投稿をしたことがある人の割合が高いこと」、「自分にとってネット上に書かれたり掲載されたくないこと」を踏まえて、自分の情報発信について、気を付けていること、これから気を付けていくことを考えます。

参考資料 「平成27年度 情報モラル調査結果（岐阜県教育委員会）」

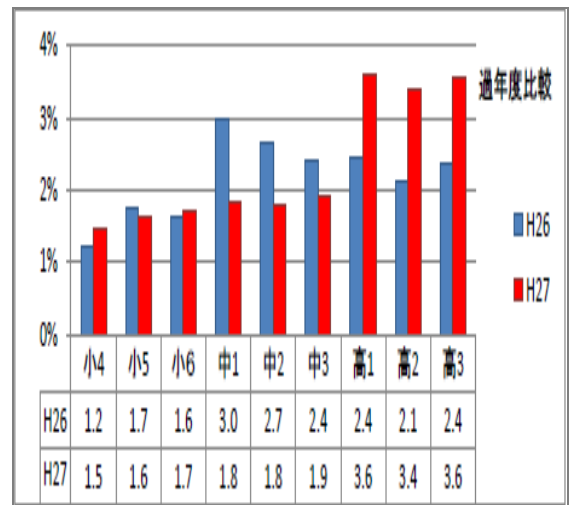
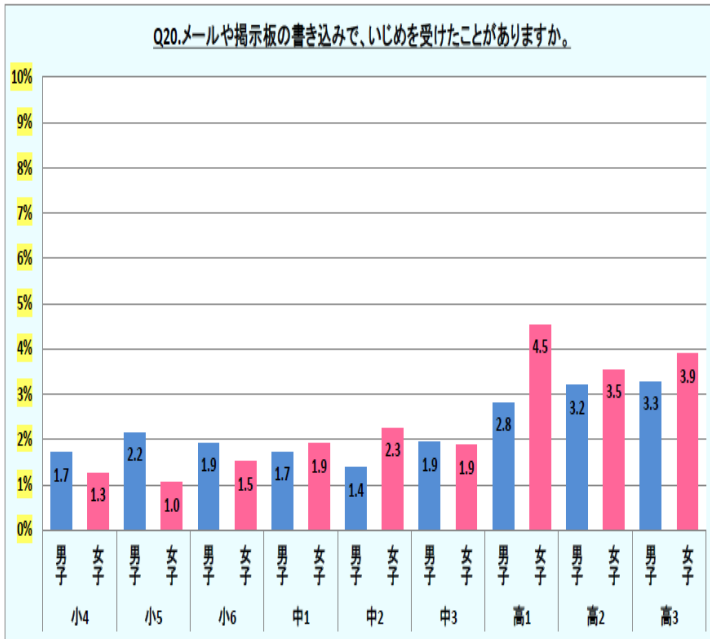
【自分の携帯を持っている児童生徒の割合】



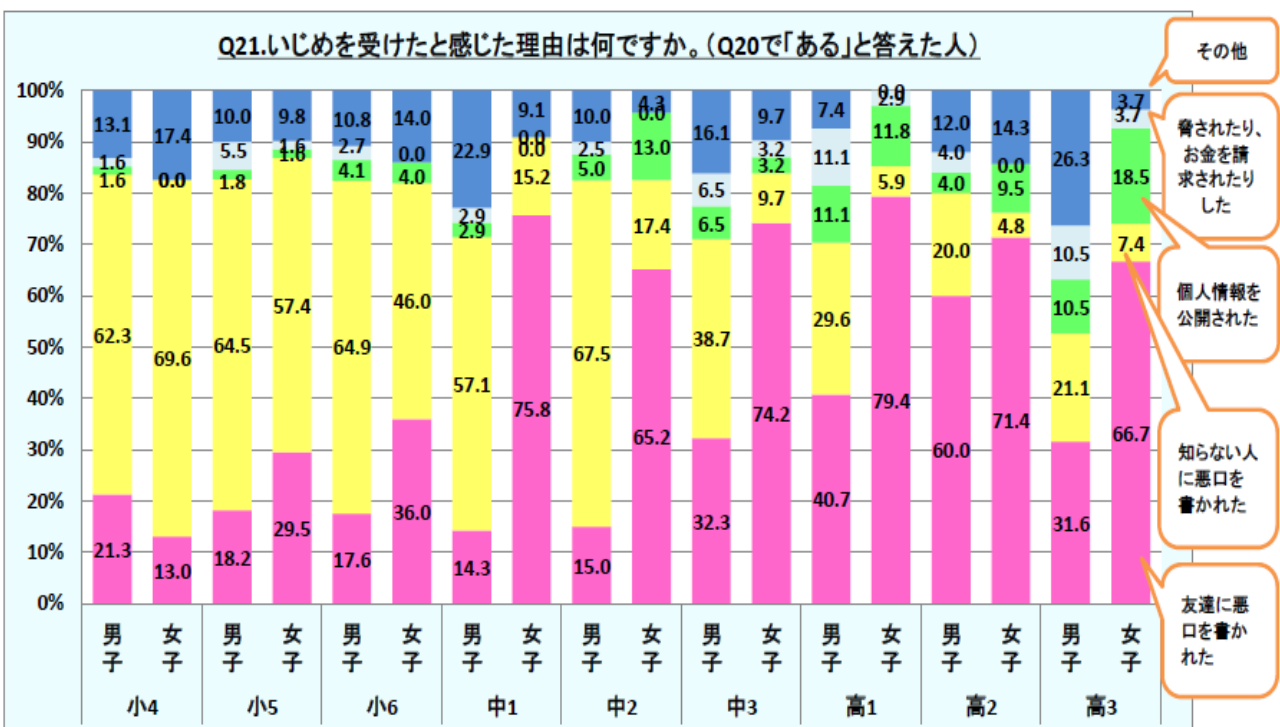
【通信型ゲーム機や携帯音楽プレーヤーを持っている人の割合】



【メールや掲示板の書き込みで、いじめを受けたことがあると回答した児童生徒の割合】



【いじめを受けたと感じた理由】



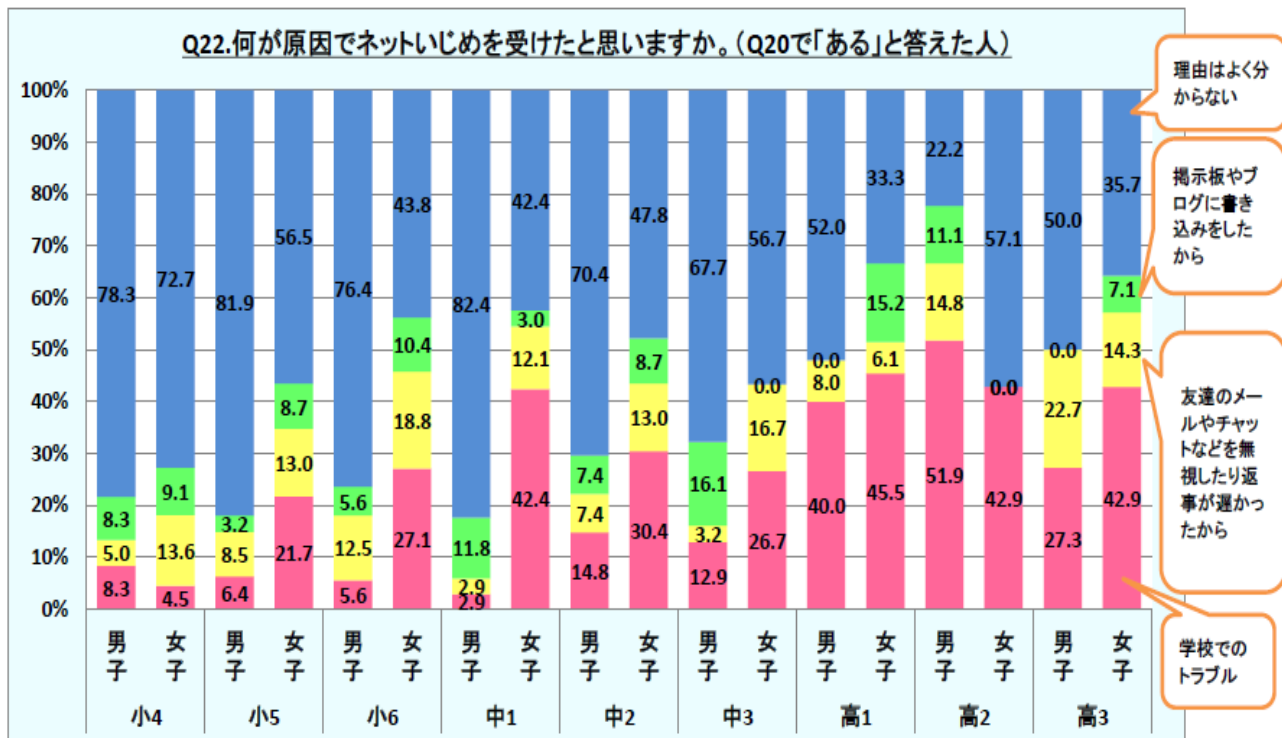
- ・小学生では、知らない人に悪口を書かれる割合が高い。

オンラインゲーム等による交流が多いと考えられる小学生では、オンラインゲーム上で知り合った人（直接会っていない「知らない人」）に悪口を書かれていることが考えられます。

- ・中学生、高校生では、友だちに悪口を書かれる割合が高い。

携帯電話等の所持率が高くなる中学生、高校生では、友人同士のコミュニケーションの中で悪口を書かれていることが考えられます。リーフレットにあるように、安易な情報発信が、友人を傷付けてしまっている可能性もあります。

【いじめを受けた原因として考えられること】



・小学生では、理由がよくわからない状況が多い。

オンラインゲーム等での交流が多いと考えられる小学生では、知らない相手から、理由がよく分からず悪口を書かれている可能性があります。

・中学生、高校生になると、学校内でのトラブルが原因となる割合が高くなる。

被害者と加害者が同じ学校にいる可能性が高いことが分かります。

◎書き込みをする時に相手の顔が見えないから、相手の気持ちを想像しにくくなってしまいます。情報発信の際に相手の気持ちを思いやることの大切さを、児童生徒に教えていく必要があります。

3 終わりに

安全に、そして安心してインターネットを利用できる児童生徒を育てるために、自ら学ぼうとする姿勢を育てることも大切です。「教える」だけでなく「自分で調べ、考える」指導を充実させていきましょう。このためにも、児童生徒が自分の情報発信を振り返り、自分を守るため、他人を傷つけないために、正しい情報発信がどうあるべきかについて考えるために、リーフレットを活用願います。

児童生徒は、学校で情報モラルについて学んでいますが、右のグラフのように、被害者の中には、自分のこととして受け止めていなかったり、しっかりと理解できていなかったりする人がいます。また、不登校などの状況にある児童生徒については、情報モラルについての指導を受けていない場合があります。ネット環境が身近なところにある現状においては、全ての児童生徒に対して情報モラルを意図的・計画的に指導することは極めて重要なことです。

